

## 「旬」の植物紹介(8月編)

**クサギ** *Clerodendrum trichotomum* Thunb. (クマツヅラ科)

### クサギ属

初夏までは成熟したみどりの葉っぱに埋もれているが、8月の焼け付くような日差しの中で存在をアピールする植物である。明るい道ばたなどを主体に、白くて優しい花をまとめて咲かせるので、「おっ、こんなところにあったのか」と驚かされることもある。

名前の由来は「臭い木」からクサギとなったという。葉をもむと独特のにおいがあり、たいていの大人は「クサイ」と顔をゆがめるが、子どもは「バターのかおり」「マーガリンみたい」と世代の違いを感じさせる。若い葉を乾燥させ、保存食とした山菜としても有名である。

葉っぱのにおいとは裏腹に、花はユリの花に似た芳香があり、花の時期にこの木に近づくと、甘い香りが暑さをしばし癒してくれる。

晩秋には、赤い萼の真ん中に藍色の実を付ける。この実は古くから青緑色の染料として用いられるとのこと。どんな色なのか興味津々ではある。



←クサギの花 (久米南町 2021.8.11)



←クサギの実：濃紅色に変身した萼の  
中に藍色に近い実が秋を彩る  
(植物雑学辞典から)

引用：岡山理科大学「植物雑学辞典」  
読む植物図鑑1 川尻秀樹著  
樹木の名前 山と溪谷社刊